

大塚だより

調布大塚小学校

「夢は壊せない」

— 女川第一中学校生徒との交流会 —

校長 吉野 明

七月七日、宮城県牡鹿郡女川町立女川第一中学校の生徒四名と教員一名が本校を訪問しました。東日本大震災の発生後、本校のPTAやおやじの会の方々の温かい支援活動に対してお礼を言いたいということで、修学旅行で東京を訪問したのにあわせて来校したものです。四名の男子生徒は修学旅行の疲れも見せず、元気に、しかもたいへん礼儀正しく接していました。本校からは教員・PTA役員・親父の会役員などで迎えることができました。また、大田区広報課の職員も取材に訪れ、教員・生徒の来校を歓迎しました。

本校では、六月下旬にこの話を聞いてから、何か歓迎できることはないか考えました。あまり派手になることは生徒にも余計な緊張を与えてしまうのではないかと、でも、温かい気持ちで迎えたいと考えました。当日は、四名の生徒から修学旅行の日程や東京の感想などを聞いた後、音楽室で六年生が集会活動を企画し生徒を歓迎しました。六年生が雪が谷太鼓やリコーダーの演奏などを行いました。六年生も、

宮城県の震災にあった学校からの訪問ということや、学校を代表して自分たちが参加しているということなどで普段より緊張しているようでしたが、挨拶して演奏する様子や話を聞く態度など最高学年として立派に務めを果たしました。

最後に生徒から、本校のPTA・おやじの会・教職員に対してお礼の言葉がありました。「家を流され行方不明の友人などがある中、始業式をやつと迎えたこと」「中学校総合体育大会を行ううちに次第に元気になったこと」「生徒総会でこれからの女川町を復興するために知恵を出し合っていること」「どんな形でもいいから町のために働きたいこと」など一つ一つの言葉に重みがありました。六年生も真剣そのもので聞き入っていました。

引率教員の話では、できるだけ経費を押さえるため新幹線ではなく、バスを利用して五時間かけて東京まで来たそうです。家族を亡くした子、家が流された子、高台のため何も被害を受けなかった子など生徒の被災状況が様々なため、中学校では状況の違いを考えた指導に難しさを感じるといふことでした。「家でやってきなさい。」「弁当をもつてきなさい。」「などと不用意に発言し、戸惑う生徒を見てあわてて言い直したこともあったそうです。

本校を去る時、きちんと挨拶し、次の目的地に向かう生徒の姿は大変元気でした。生徒を送り出した女川第一中学校の校長先生をはじめとする教職員や保護者・地域の方々の思いを感じて、静かな感動が私の心に沸き起こりました。

帰り際に生徒たちが、女川第一中学校の復興の様子を記した冊子をくれました。四月から現在までの

経過を写真と言葉でまとめたものです。そつとめくるうちに、生徒の一人の俳句が目に入りました。

「夢だけは 壊せなかった 大震災」

がれきの処理も十分に進まず、原発事故への対応も思うようにいきません。しかし、若い人材は流されることなく、確実にたくましく大地に根付いています。力強く生きてほしい、がんばってほしいと願わずにはいられませんでした。

さて、明日から四十二日間の長い夏休みです。交通事故、水の事故など安全には十分注意し、元気に二学期を迎えましょう。

(なお、裏面に、中学生のお礼状を全文掲載しました。夏休み前の本日、親子で一緒に読んでいただけるととても嬉しいです。)



夏季休業中の予定

夏季水泳教室

前期 7月21日(木)～
8月4日(木)

後期 8月22日(月)～
8月30日(火)

お楽しみ教室

7月21日(木)～29日(金)

8月29日(月)～30日(火)

全校登校日 8月25日(木)

盆踊り 7月30日(土) 31日(日)

ラジオ体操

8月22日(月)～8月26日(金)

お礼状

三月十一日の東日本大震災により、私達のふるさと女川町はとても大きな被害をうけました。今でも行方不明になっている方がたくさんいます。また、避難所で生活している人もたくさんいます。

四月八日に新年度が始まることになり、私達は学校生活に必要なものを十分に準備できないまま登校することになりました。そんなときに、日本全国や世界各地の皆さんからのご支援により、何とか今年の学校生活を始めることができました。本当にありがとうございました。

特に、おやじの会のみな様には、私達に最も必要な学用品などのご支援の他に、今回の旅行の企画や協力をしていただきました。私達がこうやって感謝と御礼の心を直接伝えることができています。みなさんのおかげです。

余震の影響で四月十二日に始まった一学期の生活も三ヶ月がすぎました。小学校と一緒に生活することになりました。でも今まで通りに授業を受けることができている。部活動もはじめることができました。その時の感動は今も忘れません。先月



の二十五日、二十六日に行われた中総体では最後のの中総体ということもあり、みんなが合が入っていました。全員が無事に全力を出し切ることができました。ありがとうございました。

五月の終わりに私達三年生が中心となり生徒総会を開き、女川第一中学校の生徒全員で「今、女川一中生として何ができるか」を話し合いました。

「ボランティア活動をしよう」「元気に誰にでもあいさつをしよう」「皆に笑顔を届けよう」などたくさんの意見が挙げられました。これらの提案はそれぞれの専門委員会ですらに具体的に検討され、少しずつですが実現されています。でもまだ実現できないものもあります。そんな中で中学生の私達にできる事は私達の元気な姿を見せることだと思えます。何にもすることができないなら、元気な姿を見せ、誰かのために頑張っている人達の原動力にしてもらうのが恩返しの一歩になると思います。



私達には将来、それぞれやりたいことがあります。今回の震災を受けてどんな形でもいいのでこの町のために働きたいと考えています。

このような充実した三ヶ月の学校生活を送れることができるのもおやじの会の皆様そして多くの方々のご支援があったからです。本当にありがとうございました。

私達は、このことをいつまでも忘れず、いつか大人になった時に自分達が何かで困っている人達のために自分から何かをすすんですることができるようになりたいです。これからも常に感謝の気持を持って、一生懸命生きていきたいです。

平成二十三年七月七日

女川第一中学校三年

阿部 航児
 小海 途瑞樹
 平坂 尚貴
 宍戸 蓮